



特定非営利活動法人 **OurPlanetTV**  
第9回通常総会議案書

2014年3月1日(土) 15時～17時  
於) ちよだボランティアセンターA 会議室

### 総会議事

---

1. 総会成立の確認
2. 総会開会挨拶
3. 議長選出
4. 書記、議事録署名人の選任
5. 報告事項
6. 審議事項
  - 第一号議案 2013年度事業報告
  - 第二号議案 2013年度決算報告
  - 第三号議案 2014年度事業計画
  - 第四号議案 2014年度予算
7. 行事
  - 活動紹介
8. 議長解任
9. 総会閉会挨拶

<b>■第一号議案 2013年度事業報告</b>	
1、事業実施の報告	3
2、事業実施に関する事項	
—コンテンツ制作に係る事業—	
（1）市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作	4
（2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介	9
—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—	
（3）子ども・市民のための映像制作教育	9
（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり	10
（5）社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援	11
<b>■第二号議案 2013年度決算報告</b>	
収支計算書	13
貸借対照表・財産目録	14
2013年度監査報告書	15
<b>■第三号議案 2014年度事業計画</b>	
1、事業実施の方針	16
2、事業実施に関する事項	
—コンテンツ制作に係る事業—	
（1）市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作	17
（2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介	17
—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—	
（3）子ども・市民のための映像制作教育	18
（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり	18
（5）社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援	19
<b>■第四号議案 2014年度予算</b>	20

特定非営利活動法人 OurPlanetTV  
2013 年度 事業報告書

1、 事業実施の報告

2013年は、「福島映像祭」を開催し成功を収めた。こうした大規模な映画祭の開催は挑戦だった。これまで、関係性の薄かった福島県内の全ての民間テレビ局に協力を得て、6つの作品を上映。シンポジウムを行ったほか、オリジナル作品として「東電テレビ会議 49時間の記録」「飯館村 わたしの記録」を制作上映した意義も大きかった。「飯館村 わたしの記録」は、飯館村の酪農家である長谷川健一さんが事故直後から撮影していたビデオを、OurPlanetTVの呼びかけで映画化したもので、私たちの映像支援の取組みが、映画という形で結実したものと言える。

このほか、私たち独自の調査報道として、復興庁の元参事官がツイッターで暴言を吐いていたことを突き止めその全容を示したニュースは、全国的に大々的に報じられるに至った。元参事官は、復興庁の子ども被災者支援法担当であり、私たちが長期的に、原発被災者問題に取り組んでいたことの成果と言える。また、福島県民健康管理調査の甲状腺検査に関しても、福島県立医大が、人手や技術不足による誤診を恐れて10億円という、法外な損害賠償責任保険に加入していた事実を明らかにした。

インタビュー番組で最も反響が大きかったのは、福島第一原発の事故当時、2号機の運転員として中央制御室で働いていた男性へのインタビューである。中央制御室にいた運転員が本名や顔を明かした上で、取材に応じたケースは、これまでになく、国内外のマスメディアからも問合せが続いている。OurPlanetTVの日頃の報道への信頼が、こうした取材を可能としていると自負している。

秋以降は、秘密保護法が大きな焦点となった。OurPlanetTVでは、「知る権利」への影響のみならず、人権や平和主義、国民主権といった、憲法で規定されている重要な理念を崩す恐れのある法律と捉え、集中的に報じた。特に、衆議院の強行採決前日に福島県内で実施された公聴会は、NHKも含め、全ての内容を配信したメディアは他になく、多くの人に視聴された。

秘密保護法は、残念ことに、12月6日に参議院で採決され、公示されてしまったが、厳しい政治状況に屈することなく、2014年の活動につなげていきたい。

代表理事 白石草

- (1) 会員数 \*2013年12月末日現在  
・正会員 30名 ※新規1名 ・賛助会員(個人) 247名 ※新規63名 ・団体会員 5
- (2) 従業員の状況 \*2013年12月末日現在  
\*フルタイムスタッフ3名
- (3) 活動の拠点  
\*東京事務所・京都事務所

## 2、 事業実施に関する事項

### —コンテンツに制作に係る事業—

#### (1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたった番組の制作

##### 独自企画番組の制作および配信

###### 【事業内容】

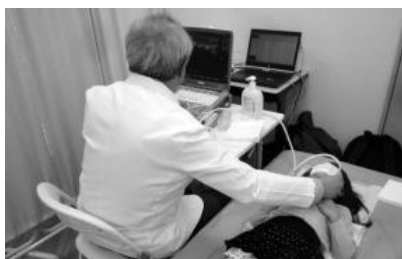
###### 映像作品 (ContAct/NewsClips/Documentary)

東日本大震災、福島第一原発事故から1年が経過し、マスメディアから震災、原発事故に関する情報が減る中、OurPlanetTVは、2011年、2012年に引き続き、子どもの被ばく問題および原発再稼働問題などに力を入れた。配信番組は計146番組(コンタクト20本、ニュース126本)にのぼった。

- ◆ 2月から、福島 NGO スペースを拠点にしたライブ番組「ふくしまの声」を配信。福島に暮らしながらも揺れる人々の思いや子どもたちの被曝をめぐる苦悩の声を伝え、反響を呼んだ。
- ◆ 6月には、東日本大震災当時、福島第一原発2号機で運転員をしていた20代の男性のインタビューを配信。東京電力の運転員としてはじめて、顔や名前を明らかにし、事故当時の様子について語ってもらった。
- ◆ 「福島県民健康管理調査」について、独自の調査により、誤診へ対応するために10億円の損害賠償保険に加入している事実を報道した。健診とデータを集約するためにムリが生じている現実を明らかにした。
- ◆ 夏には、福島県外にあるために、政府からの支援を得られていない宮城県丸森町の筆甫地区を取材。また年末には、避難解除による賠償打ち切りで貧困化している福島県川市村の仮設住民たちの現実をまとめ、配信した。
- ◆ 「福島映像祭」にむけ、東京電力が記録していた「テレビ会議」映像を4時間にまとめた「東電テレビ会議 49時間の記録」を編集。また、飯館村の酪農家・長谷川健一さんが撮影した映像を「飯館村 わたしの記録」という70分の作品に映画化した。
- ◆ 子ども被災者支援法の基本方針をめぐる動向をつぶさに取材。その活動を通して、復興庁の水野靖久元参事官の暴言ツイートをつき止めた。同ニュースはテレビ、新聞で大きく取り上げられ、OurPlanetTVの動画も多数使用された。

###### 【映像素材 放映実績】 \*放送日:6月13日～15日

- ・テレビ朝日 モーニングバード、報道ステーション、ワイドスクランブル
- ・TBS 情報7daysニュースキャスター、朝ズバ、Nスタ、News23、サンデーモーニング
- ・フジテレビ めざまし朝の報道ニュース、スピーク、スーパーニュース、ニュースJapan
- ・日本テレビ ZIP



**【配信実績】ContAct 20本**

「復興」から置き去りー川内村仮設住民・3回目の年越し	2013年12月27日
いのち・食・家族をつなぐーある精肉店のはなしー	2013年11月29日
Fotgazet 通信緊急版・シミュレーション「特定秘密」	2013年11月11日
「福島との格差なぜ？」ー放射能に苦悩する県境の町	2013年9月27日
「甲状腺がんが転移」息子をなくしたウクライナの父	2013年8月19日
「死ぬ覚悟した」ー福島原発の元運転員、初証言	2013年8月12日
黙殺された抵抗ー映画「標的の村」	2013年8月8日
「東京を撮る」ーソレイユのこどもたちー	2013年7月17日
甲状腺がん12人・悪性疑い15人ー福島県調査ー	2013年6月5日
「必ず誤診」訴訟恐れ巨額保険加入ー福島県甲状腺調査	2013年6月2日
経産省前ひろば・脱原発テントの600日	2013年5月24日
【ふくしまの声】第3回 悩みながら、揺れながら	2013年5月17日
寄付革命！あなたのお金で社会は変わるか？	2013年4月3日
甲状腺がん「被曝の影響、否定出来ず」ー疫学専門家インタビュー	2013年3月6日
8000ベクレル超廃棄物の焼却をめぐる攻防ー鮫川村実験炉問題	2013年3月1日
【ふくしまの声】第2回 とどまる子どもの支援	2013年3月1日
“地産地生”の映画をー映画「ひかりのおと」	2013年2月13日
【ふくしまの声】第1回 渡利の子どもたちは今	2013年2月7日
双葉町の井戸川町長、「辞任の真意」を語る	2013年1月24日
Fotgazet 通信・忘却への抵抗ー酪農家が撮る「飯館村」	2013年1月12日

**【配信実績】NewsClips126本**

【ライブ配信】原発事故に伴う健康管理有識者会議	2013年12月25日
「原発ゼロを撤回するな」1万5千人が国会包囲	2013年12月22日
【ライブ配信】第3回放射線の健康影響に関する専門家意見交換会	2013年12月20日
【録画配信】原子力災害対策本部会議・原子力防災会議事後ブリーフィング	2013年12月20日
環境省「被曝影響会議」撮影禁止の方針ー副大臣は再検討と発言	2013年12月19日
【秘密保護法】国会靴投げで拘留延長ー支援者は不起訴求め署名提出	2013年12月18日
死刑執行「安倍政権の強い意志だ」4団体が会見	2013年12月12日
ウクライナ取材報告「低線量汚染地域における健康管理と保養」	2013年12月11日
【12・6ドキュメント】反対の声を押切り、秘密保護法成立	2013年12月7日
秘密保護法の強行採決、再びー抗議の輪広がる	2013年12月5日
ぼくらと秘密保護法ー未来をソウゾウせよ	2013年12月4日
秘密保護法公聴会「見せかけだけの茶番」怒涛の抗議止まず	2013年12月3日
「デモ＝テロ」は自民党の共通認識かー石破氏抗議に担当者暴言	2013年12月3日
人権NGO「国際人権基準を逸脱」厳しく非難ー秘密保護法	2013年12月3日
この指とまれ、女たち！ 秘密保護法反対！大集合	2013年12月2日
「採決撤回」秘密保護法案への抗議続く	2013年11月27日
福島健康調査・甲状腺検査評価部会	2013年11月26日
強行採決に対する緊急会見ー秘密保護法	2013年11月26日
「アリバイ作りなのか」秘密保護法・福島公聴会	2013年11月25日
「秘密保護法反対」1万人が怒りの声上げる	2013年11月22日
女性たちは秘密保護法に反対する記者会見	2013年11月21日
「修正でなく廃案を」新聞・テレビ・ネットのジャーナリストら要請	2013年11月20日
帰還に向けた安全・安心に関する基本的考え方ー原子力規制委員会	2013年11月19日
秘密保護法「女性の手で廃案へ」女性12人が会見	2013年11月16日
「秘密守って民守らず」官邸前で連続抗議ー秘密保護法	2013年11月16日
福島県検査で甲状腺がん58人ー最年少は8歳	2013年11月12日

第1回住民の健康管理のあり方に関する専門家会議	2013年11月11日
1ミリへの道筋なく20ミリで避難解除～規制委・議論打ち切り	2013年11月10日
住民ら「結論ありきのメンバー」と批判～環境省健康調査専門会議	2013年11月1日
秘密保護法を考える議員と市民による第3回省庁交渉	2013年10月31日
「秘密保護法」シール投票で6割反対～小学生もNO!	2013年10月30日
「秘密保護法は廃案!」国会へ請願デモ	2013年10月30日
秘密保護法案「現代の治安維持法だ」～学者ら反対声明	2013年10月28日
UNSCEAR報告「健康影響ゼロ」は非科学的～市民ら声明	2013年10月24日
警察「特定秘密」知らずに捜査?～秘密保全法、矛盾だらけ	2013年10月23日
「秘密保護法案にNO!」市民の抗議相次ぐ	2013年10月22日
秘密の指定・廃棄・更新「公表しない」～秘密保護法	2013年10月21日
「帰還ありき」に有識者から異論相次ぐ～避難解除に向け	2013年10月16日
「福島で保護と服従」(日仏会館)	2013年10月15日
「骨抜き基本方針」閣議決定～被災者の声聞かず	2013年10月11日
秘密保護法を考える超党派議員と市民の勉強会	2013年10月10日
パブコメ全く反映されず閣議決定へ～子ども被災者支援法	2013年10月9日
いわき市の漁師「汚染水、絶対に受け入れられない」	2013年10月3日
第2回 帰還に向けた安全・安心対策に関する検討チーム	2013年10月3日
復興庁に苛立ちの声相次ぐ～支援法のパブコメは約5千通	2013年10月2日
首長発言も黒塗り～線量基準策で住民置き去り浮き彫り	2013年9月18日
年1ミリ達成は数十年後～避難解除に向け政府方針	2013年9月17日
「住宅支援打ち切り」復興庁主導か～自主避難者をめぐり文書入手	2013年9月13日
見直し求める声相次ぐ、支援法説明会	2013年9月12日
被災者が基本方針の撤回要望～子ども・被災者支援法	2013年9月4日
復興大臣「100ミリ以下の健康影響わずか」支援法基本方針	2013年8月30日
支援法の基本方針～線量基準なく既存政策寄せ集め	2013年8月29日
避難解除に向け、規制委が「安心安全対策チーム」設置	2013年8月28日
来年度も予算ゼロか?～子ども被災者支援法の概算要求	2013年8月27日
「1ミリ以上を対象地域に」～子ども被災者支援法で国を提訴	2013年8月22日
甲状腺がんデータに大幅ミス～福島県民健康調査	2013年8月21日
甲状腺がん悪性、悪性疑い43人～福島県民健康管理調査	2013年8月20日
帰還の切り札「新型線量計」とは?～被曝量を自己管理へ	2013年8月1日
市民ら復興庁に抗議～被災者支援法先送りめぐり	2013年8月1日
国、被告を別人と間違え提訴か～脱原発テント訴訟	2013年7月23日
5原発10基が再稼働申請～新規制基準が施行	2013年7月8日
5原発10基が再稼働申請～新規制基準が施行	2013年7月8日
七夕に脱原発の願い～母親たち官邸前に集結	2013年7月7日
泉田知事、東電社長に不快感～原発再稼働めぐり	2013年7月5日
東電、柏崎刈羽原発の再稼働申請へ～新潟知事は反発	2013年7月2日
「ブラック企業大賞」候補発表～ワタミなど8社	2013年6月27日
東電株主総会駆け足で採決～運営手法に非難の声	2013年6月26日
子ども被災者支援法施行1年間～省内会議はゼロ	2013年6月25日
子ども・被災者支援法1年～復興省担当者に停職30日	2013年6月21日
復興庁へ日弁連ら申し入れ～ツイッター問題	2013年6月20日
原発「新基準」決定に抗議の声～複数原発が再稼働申請へ	2013年6月19日
「子ども被災者支援法」担当の空席つづく～復興庁	2013年6月18日
【ライブ配信】6/19(水)10時30分 原子力規制委員会	2013年6月18日
議員が緊急会合「復興庁の組織問題」～復興庁ツイッター問題	2013年6月14日
復興庁副大臣会見～水野参事官発言	2013年6月13日
被災者や議員へ中傷ツイート連発～復興庁「支援法」担当	2013年6月13日

健康診断求め請願書提出～茨城・千葉・埼玉の保護者	2013年6月7日
20ミリ避難基準の転換を―国連勧告の受け入れ求め緊急集会	2013年5月30日
夫婦別姓の権利認めず、東京地裁～夫婦別姓訴訟	2013年5月29日
緊急集会「国連報告者グローバー氏の勧告を受けて」	2013年5月29日
「避難基準の厳格化を」日本に勧告―国連人権理事会	2013年5月28日
「橋下氏は辞任を」―抗議集会に女性結集	2013年5月22日
「福島と同等の賠償を」宮城県住民ADR集団申し立て	2013年5月21日
チェルノブイリ被害の全貌～アレクセイ・ヤブロコフ博士講演会	2013年5月18日
【ライブ配信】田中委員長記者会見～原子力規制委	2013年5月15日
「脱原発テント」撤去訴訟～取り下げ求め署名提出	2013年5月10日
【徹底分析】仙台高裁判決～ふくしま集団疎開裁判	2013年5月8日
子どもたちの未来のために―健康被害の防止求めデモ	2013年5月5日
ふくしま集団疎開裁判～仙台高裁が却下	2013年4月24日
【資料は語る】「精密」はウソ？―甲状腺検査で観察項目を大幅省略	2013年4月24日
「住民守る気あるのか」新潟県知事、原子力規制委を批判	2013年4月22日
東電賠償初の和解―国の基準外で「避難の合理性」認める	2013年4月17日
原子力市民委員会が発足～脱原発に向け政策提言	2013年4月17日
第3回原子力規制委員会	2013年4月17日
【アーカイブ】日本におけるアントニオ・ネグリとの対話	2013年4月11日
新基準「5年猶予」～原子力規制委が議論せずに提示	2013年4月10日
【ライブ配信】4月10日 第2回原子力規制委員会	2013年4月10日
官邸前に初来日のネグリ現る	2013年4月5日
ライブ配信】発電用軽水型原子炉の新規制基準に関する検討チーム	2013年4月4日
原発新基準「5年猶予にNO」～市民が抗議	2013年4月3日
自主避難者“健康調査”おきざり―支援法をめぐり応酬	2013年4月2日
子ども被災者支援法「対象地域」―原子力規制委が基準を検討	2013年3月22日
野宿者が人権救済申立て～渋谷区の公園封鎖めぐり	2013年3月21日
子ども被災者支援法「基本方針」がふりだしへ―解釈めぐり激論	2013年3月19日
「被害実態を踏まえていない」―原発被災者支援策に抗議の声	2013年3月15日
「日本は世界の流れに逆行」死刑停止を求め共同声明	2013年3月15日
原発事故から2年～被災者1650人が提訴	2013年3月11日
原発事故2年目―脱原発への思い新たに	2013年3月10日
「福島を忘れないで」～脱原発集会で避難者が訴え	2013年3月9日
規制委・健康管理のあり方提言～福島県医師会の要望入らず	2013年3月6日
【ライブ配信】第32回原子力規制委員会	2013年3月6日
原発事故時の防災指針にパブコメ反映されず	2013年2月27日
千葉・9市が復興庁へ緊急要望～子ども被災者支援法	2013年2月26日
東電の強制捜査を求め、被災者ら東京地検困む	2013年2月22日
「原発さえなければ」自死酪農家の遺族、東電提訴へ	2013年2月20日
規制委・健康管理のあり方検討会―総括案めぐり混乱	2013年2月19日
鮫川村の焼却実証実験施設について―いわき市住民説明会	2013年2月14日
福島県甲状腺検査～3人が甲状腺がん、7人悪性疑い	2013年2月13日
写真家がニコン提訴～「慰安婦」写真展中止事件	2013年2月12日
東電が国会事故調に虚偽～地震影響の調査妨げる	2013年2月7日
原子力規制委、面談ルール改定～内部資料漏洩	2013年2月6日
原子力規制庁幹部、日本原電に内部資料漏洩	2013年2月1日
原発事故時の対策改定案発表、パブコメ募集はじまる	2013年1月29日
【中継】緊急被ばく医療と原子力災害事前対策等に関する合同会合	2013年1月23日
「被災者の意見を反映させたい」子ども・被災者支援議連発足	2013年1月22日
「安倍新政権にNO！」大江健三郎さんら、脱原発要求	2013年1月10日

## 福島映像祭



多様な映像を通して福島第一原発事故以降の福島の姿を映し出すことを狙いとし、9月14日～20日の1週間、東京・ポレポレ東中野で開催した。上映作品は映画5作品、テレビ番組6作品、特別上映2作品の計13作品。総動員数はイベントも含め1000人を超えた。関連企画として、9月26日には早稲田大学にて「福島映像祭 in Waseda」を開催。また、京都では9月23日に開催された「<オンナ・コドモ>のジャーナリズム 福島のお母さんたちとともに」の中でポレポレ東中野での福島映像祭について報告した。

### 【福島映像祭 2013 上映作品】

【特別上映】 「東電テレビ会議 49 時間の記録」 (製作: OurPlanet-TV/2013 年/206 分)  
「飯舘村 わたしの記録」 (撮影・監督: 長谷川健一/2013 年/68 分)

【映画】 「福島へようこそ」 (監督: アラン・ド・アルー/2013 年/ベルギー/60 分)  
「霧の向こう \*Yonaoshi 3.11」 (監督: ケイコ・クルディ/2013 年/日仏合作/94 分)  
「天に栄える村」 (監督: 原村政樹/2013 年/日本/106 分)  
「福島 生きものの記録」 (監督: 岩崎雅典/2013 年/日本/76 分)  
「Between Yesterday and Tomorrow」 (オムニバス作品/2011-2012 年/日本/63 分)

【テレビ番組】 「Fukushima Reporters~Keep the Camera Rolling」 (福島中央テレビ/50 分)  
「原発水素爆発 わたしたちはどう伝えたのかII」 (福島中央テレビ/47 分)  
「それでも希望のタネをまく~福島農家 2年目の試練~」 (テレビユー福島/50 分)  
「農業をあきらめない~旧警戒区域の農家たち~」 (福島放送/26 分)  
「闘う先生」 (福島放送/46 分)  
「母とともに 避難区域に灯る一つの明かり」 (福島テレビ/54 分)

## ビデオアーカイブプロジェクト「ふくしまのこえ」



福島原発事故に関連する記録映像をアーカイブすることで国内外に福島の声を広げていくことを目的にビデオアーカイブプロジェクト「ふくしまのこえ」を7月に始動。福島第一原発事故直後の様子や、その後の暮らしにまつわる映像記録を一般から広く集め、新たに立ち上げたウェブサイト「ふくしまのこえ」(<http://fukushimavoice.net/>)に集約している。全国から作品が集まり、23作品のビデオを掲載した。

### 【掲載実績】

『福島県いわき市小名浜 2011年4月3日』 (2011年4月3日/山川宗則)
『3・11メルトダウン 福島原発取材の現場から Part 1』 (2011年7月7日/綿井健陽)
『3・11メルトダウン 福島原発取材の現場から Part 2』 (2011年7月18日/綿井健陽)
『3・11メルトダウン 福島原発取材の現場から Part 3』 (2011年11月23日/綿井健陽)
『福島市、飯舘村、本宮市から見沼の畑へ~見沼の炉辺から、福島を想う』 (2012年4月4日/山川宗則)



『ヒナンのキモチ』 (2012年7月10日/井桁大介)
『「原発いらない福島の女たち」 国会正門かんしょ踊り～官邸前』 (2012年6月29日/金子遊)
『いわき市久ノ浜 漁師さんの声 2011.10.3』 (2011年10月14日/東条雅之)
『飯館村 故郷を追われた人たちの声 2011.10.4』 (2011年10月18日/東条雅之)
『原発震災を経験して 福島県の若手漁師の想い 2011.10.21』 (2012年1月13日/東条雅之)
『警戒区域に生きる 松村直登さん』 (2013年5月8日/東条雅之)
『福島で見たことと聞いたこと～浪江町「希望の牧場」編1～』 (2013年5月23日/柿沼竹生)
『福島で見たことと聞いたこと～浪江町「希望の牧場」編2～』 (2013年5月28日/柿沼竹生)
『福島で見たことと聞いたこと～富岡町編1～』 (2013年5月29日/柿沼竹生)
『福島で見たことと聞いたこと～富岡町編2～』 (2013年4月5日/柿沼竹生)
『福島で見たことと聞いたこと～富岡町編3～』 (2013年4月12日/柿沼竹生)
『福島で見たことと聞いたこと～富岡町編4～』 (2013年4月18日/柿沼竹生)
『農地の声 (Voice of farmland)』 (2011年11月11日/東 英児)
『福田十二神楽～2013年5月の祭～』 (2013年8月27日/岩崎孝正)
『なみえ復興塾 2012年』 (2012年9月5日/まちづくりNPO新町なみえ)
『Acceptance』 (2012年/竹内均)
『「フクシマからみやぎきへ」 From Fukushima To Miyazaki』 上・下 (2011～2012年/サシャ・クリンガー)

## (2) 人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

### 映像コンテンツの翻訳

翻訳ボランティアと協力しながら主に番組の英訳を随時進めた。また、中国人インターン生による中国語への翻訳も取り組んだ。

### 映画紹介

映画監督インタビュー番組を3つ制作。その他の映画紹介は主にメールマガジンで随時配信した。

- ◆ 2月13日 『“地産地生”の映画を～映画「ひかりのおと」』 山崎樹一郎 (映画監督)
- ◆ 7月17日 『「東京」を撮る～ソレイユのこどもたち』 奥谷洋一郎 (映画監督)
- ◆ 11月29日 『いのち・食・家族をつなぐ～ある精肉店のはなし』 額縁あや (映画監督)

## —市民の情報発信 (パブリック・アクセス) に係る事業—

### (3) 子ども・市民のための映像制作教育

#### 映像ワークショップ



#### 【事業内容】

- ◆ 例年受講生の数が多い春に単発講座を増やした。単発講座では、京都や愛知など遠方の参加者が見られた。年間を通して受講者は20代～60代と幅広かった。秋の講座はスタッフのウクライナ取材出張や、秘密保護法に対する政府と市民の動きが激化したため、開講を中止した。
- ◆ 1月からの講座には、福島県郡山から東京へ家族で避難した、かん澤沙織さんが参加した。震災から2年目の3月に福島へ戻る決断をした自らの思いと、異なる選択をした人々をかん澤さん含むチームで取材した「3.11からの埋み火」は福島映像祭でも上映し、反響を呼んだ。
- ◆ 2月、3月に福島県内で生活する人を対象に「福島を記録する」映像ワークショップを福島市で開講した。東日本大震災復興支援財団、赤い羽根共同募金の助成を得て受講料は無料。ビデオカメラの使い方や、映像編集について講義を行った。原発事故後にならなくなった日常を記録したいとの声が相次ぎ、講座終了後もサポートを続けている。
- ◆ 2012年度のワークショップ「DIYビデオのアトリエ」で完成した金子サトシさん制作のドキュメンタリー「食卓の肖像」が春に劇場公開。新宿ケイズシネマの他、大阪、広島でも上映。2012年度のワークショップ完成作品「“デモ割” うまれたよ」が2013年地方の時代映像祭で優秀賞を受賞した。街の小さなカフェなどでの上映活動が広がっている。

#### 【実施期間】

- ◆ 1月～3月 冬期映像制作ワークショップ（8人）
- ◆ 2月、3月 「福島を記録する」映像ワークショップ（7人）
- ◆ 4月 春・3日間集中講座（5人）
- ◆ 5～7月 春期映像制作ワークショップ（11人）
- ◆ 8月 夏・3日間集中講座（8人）
- ◆ 1月～2014年3月 D I Yビデオのアトリエ（4人）

#### 【ワークショップ完成作品】

- ◆ 2013年冬 「3.11からの埋み火」「たたずむ少女」「281\_Anti Nuke Documentary」
- ◆ 2013年春 「映画『食卓の肖像』の行方」、「非日常の中に日常をつくる一人の輪ネットー」  
「ことばをつなぐ・ことばでつながるー日本語教師」「ストリートで歌う」  
「ご近所シネマのすすめ～上映会をやろう～」
- ◆ 2013年夏 「珈琲道へ創業50年『倉木コーヒー商店』」「エディトリー神保町」

#### （4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

##### メディアセンター

#### 【事業内容】

- ◆ 1月に子どもたちを放射能から守る全国ネットワークがオフィスシェアで入居した。1デスク月3万円。
- ◆ 6月にメディアカフェをリニューアル。レイアウト変更、本棚購入、書籍整理を行い好評となった。
- ◆ 来訪者は増え、機材の貸し出しと編集機の利用が増えた。主な使用者はワークショップ卒業生など。

##### アドボカシーおよびキャンペーン活動

#### 【事業内容】

2013年、メディアをめぐる最も重大な課題として取り組んだのは「秘密保護法」である。独自の声明を出さなかったものの、同法に関する報道を強化し、問題点を明らかにする努力を続けた。

このほか、国会記者会館の屋上から取材を拒否されたため、2012年9月に国と国会記者会を相手取って起こした裁判の公判が続いている。また、12月には、被曝影響に関する健康管理の方向性を議論する有識者会合が、取材制限を設けたため、主催する環境省に対し、要望書を提出するなど改善を申し入れた。現在、環境省の検討段階にある。

## (5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

### 映像コンテンツなどの受託制作

#### 【事業内容】

NPO、企業ともにVTR構成ものの動画制作は低調だった。8月には、城南信用金庫が主催のイベント「よい仕事おこしフェア」をライブ配信。2日間でのべ20人のスタッフが番組制作に関わった。

- ◆ よい仕事おこしフェア動画サイト配信（城南信用金庫）
- ◆ 助成金発表会のライブ配信（日本NPOセンター）
- ◆ 新生児・妊産婦のための教材ビデオ制作（メディカ出版）
- ◆ アンтониオ・ネグリ講演ライブ配信（公益財団法人国際文化会館）
- ◆ 「食卓の肖像」サイト構築（「食卓の肖像」上映委員会）
- ◆ サフランTV収録サポート（福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク）
- ◆ OAKビデオ制作（マイクロソフト株式会社） ほか

### NPOのための広報セミナー

#### 【事業内容】

入門編、インターネット活用編、ビデオ活用編の3つ内容を1日集中講座（11：00～16：30）として、12月に実施した。ゲスト講師に毎日新聞の小泉敬太さんを迎え、マスメディア側からの視点を受講生と共有し、プレスリリースの作成をワークとして行なった。実践的な広報のポイントをおさえ、受講生からも好評の講座となった。

【実施】＊12月4日（水）1日集中講座 参加者12名

### 講師派遣

#### 【事業内容】

広報戦略などに関しては、NPOサポートセンター（1月～2月）全国社会福祉協議会（7月）、名古屋社会福祉協議会（9月）より依頼を受け、セミナーを実施した。

#### <広報セミナー>

- |             |        |               |
|-------------|--------|---------------|
| 1月24日       | 広報セミナー | 全国社会保険協会      |
| 1月29日、2月12日 | 広報セミナー | (NPOサポートセンター) |
| 1月22日、2月5日  | 映像セミナー | (NPOサポートセンター) |
| 3月          | 専門家派遣  | 国際交流会館        |
| 7月16日       | 広報セミナー | 全国社会福祉協議会     |
| 9月10日       | 広報セミナー | 名古屋社会福祉協議会    |

#### <講演>

- |        |               |                    |
|--------|---------------|--------------------|
| 5月18日  | テレビに未来はあるか    | (日本ジャーナリスト会議JCJ) - |
| 5月21日  | 子ども被災者支援法勉強会  | (福島原発事故緊急会議)       |
| 5月24日  | 愛媛医療労働組合      |                    |
| 6月4日   | 京都精華大学        |                    |
| 6月25日  | FoE ゼミナール     | (FoE ジャパン)         |
| 6月29日  | 地球環境研究所シンポ    | (地球環境研究所)          |
| 7月22日  | PARC 自由学校     |                    |
| 9月2日   | PARC 自由学校     |                    |
| 11月9日  | メディア総合研究所     |                    |
| 12月5日  | 中部大学          |                    |
| 12月7日  | 東久留米市男女平等センター |                    |
| 12月10日 | 青山学院大学        |                    |
| 12月12日 | 武蔵野美術大学       |                    |
| 12月15日 | メディア総合研究所     |                    |

## 組織

### ファンドレイジング

2月に仮認定NPO法人として東京都に登録された。認定取得を記念し、会員拡大を狙った会員募集キャンペーンを4月に実施。24名の新規入会者を獲得した。通常のオンライン寄付は、今年度も定期的に獲得することができた。大口寄付(5万円以上)が過去最多の13件あり、カタログハウスからも50万円の寄付をいただいた。

- ◆ 新規入会者名 63名 (賛助会員個人)
- ◆ 寄付総額は 300 万円以上 寄付者 312 名

### 【助成金実績】

- ・ 東日本大震災復興支援財団 137 万円 (福島の子どもたち映像記録・発信) ※2013 年度から継続
- ・ 中央共同募金 赤い羽根 251 万円 (被災地域情報発信活動支援) ※2013 年度から継続
- ・ LUSHチャリティバンク 100 万円 (情報発信プロジェクト「ふくしまのこえ」)
- ・ 公益信託オラクル有志の会 65 万円 (福島映像祭)
- ・ ソーシャルジャスティス基金 100 万円 (ウクライナ取材) ※2014 年度も継続

### スタッフ体制

昨年に引き続き、フルタイムスタッフは3人体制となった。「よい仕事おこしフェア」など、各イベントでボランティアを募り約 20 名が活動に参加した。インターン受け入れは 10 名。

2013年度 収支報告  
2013年1月1日～2013年12月31日

科目	【予算】支出の部	支出の部	【予算】収入の部	収入の部
事業 収入			12,500,000	15,370,838
番組制作情報提供			500,000	1,422,446
メディア教育支援			4,000,000	2,955,409
社会貢献メディア支援			6,000,000	6,576,782
助成金収入			2,000,000	4,416,201
会費収入			2,000,000	1,840,000
寄付金収入			4,500,000	3,312,994
雑収入			-	23,350
受取利息収入			-	628
<b>収入 計</b>			<b>19,000,000</b>	<b>20,547,810</b>
番組制作情報提供支出	2,000,000	3,450,627		
メディア教育支援支出	800,000	932,461		
社会貢献メディア支援支出	1,000,000	1,411,085		
給与手当(事業)	9,000,000	9,021,986		
法定福利費	1,500,000	1,190,635		
福利厚生費	100,000	420		
<b>事業費 計</b>	<b>14,400,000</b>	<b>16,007,214</b>		
通信費	100,000	190,039		
荷造 運賃	100,000	114,110		
水道光熱費	400,000	390,109		
旅費交通費	200,000	349,080		
接待交際費	-	10,500		
会議費	50,000	59,619		
事務用消耗品費	100,000	116,662		
備品消耗品費	500,000	274,558		
新聞図書費	50,000	72,419		
印刷 経費	250,000	123,678		
修繕費	100,000	68,275		
地代 家賃	2,120,000	2,116,800		
保険料	30,000	37,720		
租税 公課	500,000	308,200		
諸会費	50,000	3,312		
雑費	-	17,850		
支払手数料	50,000	74,772		
<b>管理費 計</b>	<b>4,600,000</b>	<b>4,327,703</b>		
<b>支出 計</b>	<b>19,000,000</b>	<b>20,334,917</b>		
当期収支差額				212,893

貸借対照表  
2013年12月31日現在

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	9,493,135		
その他流動資産	316,370		
流動資産合計		9,809,505	
2 固定資産			
固定資産合計		1,092,000	
資産合計			10,901,505
II 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		447,849	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			447,849
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産	12,037,721		
当期正味財産増加額		212,893	
正味財産合計			10,455,586
負債及び正味財産合計			10,903,435

財産目録  
2013年12月31日現在

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
預金	7,575,439		
現金	266,387		
郵便振替	1,651,309	9,493,135	
その他流動資産	316,370		
流動資産合計		9,809,505	
2 固定資産			
保証金	1,092,000		
固定資産合計		1,092,000	
資産合計			10,901,505
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	170,000		
預り金	277,849		
流動負債合計		447,849	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			447,849
III 正味財産の部			
正味財産合計			10,455,586

## 監査報告書

特定非営利活動法人OurPlanet-TV  
代表理事 白石 草 様

私たちは、2013年1月1日から2013年12月31日までの会計監査を行ない、次のとおり報告する。

### 1、監査の方法の概要

会計監査について、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を監査した。

### 2、監査意見

(1) 収支計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財政状態を正しく示しているものと認める。

(2) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

2014年2月6日

特定非営利活動法人OurPlanet-TV

監 事 猪俣 庸子



監 事 阿部 浩一



特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

2014年度 事業計画

1、事業実施の方針

---

2014年は、秘密保護法の施行や集団自衛権の行使容認など、戦後続いてきた日本の民主主義を揺るがすような政治状況が続くことが懸念される。マスメディアの萎縮傾向は強まっており、OurPlanetTVの役割は、ますます大変重要になっている。2011年の9.11事件直後に設立したOurPlanetTVの平和への強い願いを再確認し、丁寧に市民の声を拾い社会に発信するメディアでありたい。

情報発信については、2013年に取材を実施したチェルノブイリ事故後27年を経たウクライナの状況をドキュメンタリーにまとめ、映像配信とDVDを作成し、幅広く広げていきたい。原発事故後の福島、あるいは関東・東北においては既に、様々な健康被害が報告されつつある。政府の公式見解に拘泥することなく、現場の声を拾い、独自取材を深めることで、真実を明らかにしていきたい。

また、9月には、2013年に引き続き「福島映像祭」を開催し、原発事故後の様々な現実を共有する場を持ちたい。前年の福島の放送局の参加に加え、NHKや全国の民間放送にも、参加を呼びかけていき、更に多くの集客を得たい。

同時に、福島の様々な映像をアーカイブする「ふくしまのこえ」も引き続き力をいれるとともに、福島からの避難者、在住者向けの映像ワークショップも実施し、掻き消されつつある事故の被害を、浮き彫りにしていく。

新たな取組みとしては、様々な「現場」に足を運ぶ「スタディー取材ツアー」を、映像ワークショップの一事業として新たに展開。横須賀や渋谷など、「現場」を知りながら、取材ノウハウも習得する取組みを開始する。また「NPOのための広報セミナー」はオンライン講座を中心とし、東京在住者や関東を拠点に活動するNGO・NPOだけでなく、全国各地の市民団体の情報発信に利するよう、取組みを行っていく。

2009年にウェブサイトリニューアルしてから5年が経過した。SNSの広がりや新たなインターネットサービスが広がる中、OurPlanetTVの次なる努力が必要である。2014年は、OurPlanetTVの組織やサイト、方向性など、1年間かけて総点検し、新しい戦略・方向性を見いだしたい。

2013年1月18日

代表理事 白石草



## 2、事業実施に関する事項

---

### —コンテンツに制作に係る事業—

安倍政権となり、秘密保護法の制定、日本版NSCの創設、原発再稼働への動きなど、様々な課題が生じている。2014年は、憲法改正も視野に入れた、より新たな課題が生じて来ることが予想される。OurPlanetTVとしては、秘密保護法の廃止や、現政権の問題を浮き彫りにする報道を心がけたい。同時に、2013年に引き続き、福島原発事故に関する被曝問題や人権、環境問題などを中心に映像配信を実施する。

#### (1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいれた番組の制作

##### 独自企画番組の制作および配信

- ◆ 「ContAct」は2週間に1回のペースで配信する。
- ◆ 福島原発事故にまるわる話題を定期的にライブ配信する。
- ◆ 協力関係にあるジャーナリストの映像も随時、掲載していく。

#### (2) 人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

##### 映画紹介

###### 【事業内容】

前年に引き続き、優れたドキュメンタリー映画を紹介し、配給会社や監督、劇場との関係を強化する。監督へのインタビュー番組も精力的に行ないたい。独立系作品に関しては劇映画やアニメーション作品も、ウェブサイト・ブログ・メールマガジンなどで紹介していく。

- ◆ 毎月1本以上独立系作品を紹介。
- ◆ 2~3ヶ月に1回のペースでインタビュー番組を配信。

##### DVD販売・自主上映

###### 【事業内容】

DVD販売については、全国書店や人権・ジェンダー系の団体、公的機関への営業を進める。福島映像祭で誕生した2作品「飯館村 わたしの記録」と「東電テレビ会議 49時間の記録」は各地で自主上映会が企画されており、問い合わせも続いている。今年度は脱原発系団体や、福島を支援するグループなどに呼びかけ、自主上映の拡大を狙いたい。

###### 【自主上映会実績・予定】

###### <東電テレビ会議 49時間の記録>

- ・ 2013年12月8日 鎌倉・岐れ路の会（鎌倉恩寵教会・神奈川県鎌倉市）
- ・ 2013年12月14日 （公財）市川房枝記念会女性と政治センター（婦選会館・東京）
- ・ 2014年2月15日 『東電テレビ会議 48時間の記録』を観る会（鶴岡まちなかキネマ・山形県鶴岡市）
- ・ 2014年2月27日 東電株主代表訴訟（日比谷図書文化館大ホール・東京）
- ・ 2014年3月15日 長岡アジア映画祭実行委員会（アオーレ長岡市民交流ホール・新潟県長岡市）

###### <飯館村 わたしの記録>

- ・ 2014年5月10日 FIWC 関東委員会（中山文甫会館・大阪）

##### 翻訳

引き続き翻訳ボランティアを活用し、番組の英語化を進めていく。

##### 福島映像祭

福島映像祭2014は昨年に引き続き、福島の姿を多様な視点で描く映像作品を集め上映していく。前年の福島の放送局の参加に加え、NHKや全国の民間放送にも、参加を呼びかけたい。また、「福島映像祭 in ドイツ」として、映画祭「NIPPON CONNECTION」（5月開催）にて「福島映像祭2013」の特集上映が企画されている。

- ◆ 福島映像祭2014はポレポレ東中野にて9月13日（土）～19日（金）に開催。

## ふくしまのこえ

YouTube や Vimeo などネット上に掲載されている福島にまつわる映像をピックアップし、「ふくしまのこえ」に集積していく。被災当事者による映像記録のワークショップから生まれた作品も掲載していく。また、他のビデオアーカイブプロジェクトとの連携を探りたい。

### ◆ 毎月更新

## —市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—

### （3） 子ども・市民のための映像制作教育

#### 映像ワークショップ

##### 【事業内容】

Ustream や YouTube などの普及により、個人が映像で情報発信できる機会が増えている。一方で取材対象者との関係や映像で伝えるとはどのようなことか学ぶ機会が求められている。従来の年4回のコースに加え、新たにスタジオツアーと映像制作を合体させた、実践型の映像ワークショップを開催する。全3回開催予定で、第1弾は米軍基地のある横須賀を訪れる。また、映像によるインタビュー取材について学ぶ単発講座も開催する。

福島第一原発事故の記憶を残すために、被災当事者による映像記録と映像制作の支援を昨年につき、継続的に展開する。福島県から県外に避難されている方のコミュニティ、福島県以外で原発事故の被害にあっている多くの地域コミュニティなどを対象に、映像ワークショップの開催地を募集する。

映画監督の土屋豊さんを講師に迎えた1年間の長期映像制作ワークショップ2013年度「DIYビデオのアトリエ」が3月で最終講座をむかえる。精力的に取材を進めている途中の受講生もいるので、継続的にサポートをする体制をつくる。このほか、2013年度に好評だったアップリンク（渋谷）でのワークショップ完成作品の上映会も実施する。

##### 【実施期間】

- ・1月～3月 冬期映像制作ワークショップ
- ・3月 2013年 D I Yビデオのアトリエ 最終講座
- ・3月下旬 ワorkshop作品上映会
- ・4月 実践型映像ワークショップ①「米軍基地の街・横須賀を取材する」
- ・4月 映像インタビュー取材のレベルアップ講座
- ・5月～7月 春期映像制作ワークショップ
- ・8月 夏期・三日間集中講座（神保町）
- ・10月～12月 秋期映像制作ワークショップ

### （4） 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

#### メディアカフェ

##### 【事業内容】

2011年度から開始している事務局スペースのデスクを貸し出すオフィスシェアを引き続き実施。ワークショップ卒業生の新たな作品や、市民が持ち込んだ映像作品をプロジェクター上映し、ドキュメンタリー愛好家や、映像制作者が気軽に集まれるように引き続き利用者の拡大をめざす。機材のメンテナンス、管理を徹底する。

【実施時期】1月～12月

#### アドボカシー活動

【事業内容】 秘密保護法の廃止をはじめ、あらゆるインターネット規制、言論表現規制などに関する問題提起を行うとともに、パブリックアクセス制度をはじめ、メディアの民主化につながるよう取り組む。

【実施時期】1月～12月随時

## (5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

社会貢献支援事業は、ライブ配信やウェブ構築など、新たな分野を広げていきたい。また広報セミナーはオンラインセミナーに力を入れ、首都圏以外のNPOの情報発信に一役買えるよう取り組み、関係作りを行っていく。

### NPOのための広報セミナー

【事業内容】 NPOの事業を効果的に広報するスキルや映像を使った広報の効果について伝えるセミナーをビデオコンテンツにまとめ、オンラインで有料配信していく。

【実施時期】 5月配信予定

■オンラインコンテンツ「NPOのための広報セミナー」概要

第1回 NPOのための広報入門編～広報のポイントをつかむ

第2回 マスメディア活用術！～プレスリリースの書き方実践

第3回 インターネット活用編～SNSを効果的に活用

第4回 ビデオ活用・実践編～映像を取り入れた広報を知る

### 映像コンテンツなどの受託制作

【事業内容】 これまで同様、NPOやNGOなど、社会的に意義ある取り組みをしている団体の活動や理念を紹介し、意識改革を行うためのビデオ制作を行い、広報PRに関して、他の団体のより良い相談役となるよう取り組む。

【実施時期】 1月～12月随時

### 講師派遣

【事業内容】 希望に応じて、映像ワークショップや広報セミナーの講師派遣または運営・実施を行う。

【実施時期】 随時

## —組織運営に関する事項—

### 組織・体制

フルタイムスタッフ3名に加え、必要に応じてスタッフを配置する。

### ファンレイジング

ウクライナ報告ビデオを各地で上映し、イベントを展開することで寄付・会員拡大を呼びかけていく。また、「福島映像祭 2014」への賛同を積極的に呼びかけ、企業や団体への協賛も働きかけていきたい。助成金は随時条件に合ったものに申請していく。

◆ 4月中旬 ウクライナ報告ビデオ上映会（日比谷図書文化館大ホール・東京）

◆ 6月～ 福島映像祭 2014 賛同・協賛呼びかけ

■議案四号

2014年度予算案(2014年1月～12月)

科目	2013年度		2014年度	
	支出	収入	支出	収入
<b>事業収入 計</b>		<b>12,500,000</b>		<b>14,500,000</b>
<b>番組制作情報提供</b>		<b>500,000</b>		<b>1,500,000</b>
番組制作		500,000		800,000
福島映像祭				700,000
<b>メディア教育支援</b>		<b>4,000,000</b>		<b>3,500,000</b>
ワークショップ		3,000,000		2,500,000
メディアカフェ		500,000		500,000
講師派遣・その他		500,000		500,000
<b>社会貢献メディア支援</b>		<b>6,000,000</b>		<b>6,500,000</b>
企業支援		2,500,000		3,000,000
NPO/NGO 支援		2,500,000		3,000,000
広報サポート		1,000,000		500,000
<b>助成金</b>		<b>2,000,000</b>		<b>3,000,000</b>
<b>会費・寄付収入 計</b>		<b>6,500,000</b>		<b>5,500,000</b>
<b>会費収入</b>		<b>2,000,000</b>		<b>2,500,000</b>
<b>寄付金収入</b>		<b>4,500,000</b>		<b>3,000,000</b>
<b>支出 合計</b>		<b>19,000,000</b>		<b>20,000,000</b>
<b>事業支出 計</b>	<b>14,400,000</b>		<b>15,300,000</b>	
<b>番組制作情報提供</b>	<b>2,000,000</b>		<b>2,900,000</b>	
番組制作	1,500,000		1,900,000	
福島映画祭	500,000		1,000,000	
<b>メディア教育支援</b>	<b>800,000</b>		<b>800,000</b>	
ワークショップ	200,000		400,000	
メディアカフェ	500,000		300,000	
講師派遣・その他	100,000		100,000	
<b>社会貢献メディア支援事業</b>	<b>1,000,000</b>		<b>1,000,000</b>	
企業支援	500,000		500,000	
NPO/NGO 支援	400,000		400,000	
広報サポート	100,000		100,000	
<b>給与手当(事業)</b>	<b>10,600,000</b>		<b>10,600,000</b>	
給与手当	9,000,000		9,000,000	
法定福利費	1,500,000		1,500,000	
福利厚生費	100,000		100,000	
<b>管理費支出 計</b>	<b>4,600,000</b>		<b>4,700,000</b>	
通信費	100,000		100,000	
荷造運賃	100,000		100,000	
水道光熱費	400,000		400,000	
旅費交通費	200,000		200,000	
会議費	50,000		50,000	
事務用消耗品費	100,000		100,000	
備品消耗品費	500,000		500,000	
新聞図書費	50,000		100,000	
印刷経費	250,000		250,000	
修繕費	100,000		100,000	
地代家賃	2,120,000		2,120,000	
保険料	30,000		50,000	
租税公課	500,000		500,000	
諸会費	50,000		50,000	
支払手数料	50,000		80,000	
<b>支出 計</b>	<b>19,000,000</b>		<b>20,000,000</b>	

# あらゆる

# 福島の内側へ

5 福島映像祭2013s

高木祥衣

Takagi Sachie (OurPlanetTV)

## 福島で何が起こっているか

2013年9月14日から20日までの一週間、インターネット放送局OurPlanetTV（アワプラネットテレビヴィー）は、東京・東中野にある単館系映画館「ボレボレ東中野」などを拠点に「福島映像祭2013」を開催した。

初めての試みとなるこの企画は、多様な映像を通して福島第一原発事故以降の福島を映し出すことが狙いだ。二年半が経過した今、原発事故によって変わってしまった暮らしに関する報道は減り、「風化」が進む。

今、福島で何が起こっているのか、

人々は何を感じ、現実とどう向き合っているのか……。ドキュメンタリー映画からテレビ番組、一般市民による生活の記録まで、福島にまつわるあらゆる「映像」を集めることで、多角的な視点から「福島の今」を人々につなげる「映像祭」を目指した。普段の取材現場や、OIE PlanetTVの活動基盤であるインターネットという場から離れ、劇場という空間で、多くの人々と同じものを見つめながら、3・11以降の暮らしをともしに問い直したいという思いもあった。

## 「東電テレビ会議」の迫力

初日のプログラム『東電テレビ会議 49時間の記録』は大きな反響を呼び、会場から人が溢れることとなった。この作品は、東京電力が去年夏に公開した原発事故直後のテレビ会議映像をもとに、OurPlanetTVが四時間に編集した報道ドキュメントだ。

2011年3月12日から15日までの三日間、東京電力福島第一原発で何が起こっていたのか。映像は、福島オフサイトセンター、東電本店、福島第一原発、福島第二原発、柏崎刈羽原発を結ぶテレビ会議の分割画面

のみ。しかし、緊迫した現場の声には、どんな映像よりも臨場感と迫力があり、観る者を飽きさせない。

ため息、失笑、驚き、そして怒りの声……。上映中、会場の至るところから、あらゆる反応が見られた。今日の汚染水漏れに続くあの事故の、原点に立ち戻る体験を共有することの重要性を再認識した瞬間だった。

## 酪農家が監督デビュー

もう一つの特別上映作品は『飯館村 わたしの記録』だ。飯館村の酪農家、長谷川健一さんが「あの日」から刻々と変わる日々を記録したホームビデオを六八分にまとめたものだ。

飼っていた牛が売られていく様子、荒れ果てていく田畑、全村避難までの粛々とした時間、村の自宅で家族が集まった最後の晩餐。長谷川さんが撮影時に吹き込んだコメントが時折、映像を詩的に彩る。

長谷川さんは事故後、この事態を後世に伝えたいと、初めてビデオカメラを手にした。当事者が自らの思いを伝える。ジャーナリズムとは何かを静かに、力強く教えてくれる。「原発事故や福島を扱ったどんな映

画よりも心に響いた」という声が相次いだ。

### 福島の民放四局も参加

福島の民放テレビ四局——テレビユー福島、福島テレビ、福島放送、福島中央テレビに協力を仰ぎ、地元テレビ局の番組を劇場で上映するという取り組みも行った。各局はそれぞれ系列があり、全国放送につながるルートをもっている。しかし、時間の経過とともに、彼らが伝えたいことと、全国で放送される内容にずれが生じており、歯がゆい思いを抱いていた。

全国ネットでは放映されず、埋もれている数々の映像。地元テレビ局が丁寧に描く福島の姿をとらえた六番組を【メディア・ジャーナリズム】【農業・食】【ひと・生きる】というカテゴリーでセレクトした。

9月15日に行ったトークセッション「地元テレビ局は福島をどう伝えていくのか」では、四局から関係者を招き、3・11からこれまでを振り返り、現在の思いをお話いただいた。現場の葛藤や苦悩、今なお続く罪悪感、そして希望。福島で暮らし、福島とともに生きてきた彼らの

視点から、原発事故後のメディアの役割を考える貴重な機会となった。

### 一般公募のビデオも

OurPlanetTVでは、2013年7月に新たなプロジェクト「ふくしまのこゝえ (<http://fukushimavoice.com/>)」をスタートした。一般人々が記録した福島にまつわる映像をインターネット上にアーカイブする参加型のプロジェクトだ。今回の映像祭では、8月末までに集まったビデオから約三〇作品を選び、会場で展示上映するという試みも行った。

被災した酒蔵が浪江町から山形へと移り、酒造りを再開する姿を追ったものや、相馬郡新地町のお祭りと子どもたちを静かに映したものの。警



▲「東電テレビ会議 49時間の記録」

戒区域内に暮らし続ける人や地元漁師のインタビュー。日々の暮らしや子どもたちの表情を切り取った短いビデオクリップこそが、より身近で鮮明なイメージを描き、リアルな姿を記録・表現する可能性を持つていると実感した。

### 多様な物語をつなぐ

福島の抱える多面的な現実を、異なるテーマの映画から感じてほしい。このほか、国内外のドキュメンタリー映画五作品も上映した。いずれも、今回が劇場初公開。農業や生き物、家族や暮らしなど、東京の観客にも通ずるテーマを扱ったものが揃った。

原発事故や震災を扱った映画は最近、客足が不調だと言われている。



▲「飯館村 わたしの記録」

私たちも、福島映像祭の開催直前まで、手応えが掴めずにいた。しかし、一週間で集客は一〇〇〇人を超えた。

今回の映像祭では、「それでも希望のタネをまく」(テレビユー福島)といったタイトルに込められた思いに共感し、「それでも」という福島の一つの姿勢がプログラムの核となった。

しかし、福島の物語は決してそれだけではない。複雑な葛藤、対立、ズレ、あきらめや焦り…今後、物語はさらに増えていくだろう。福島映像祭はこれからも、そういった多様な物語をつなぎ合わせ、日々変わりゆく福島の「今」を映し出す場として人々に問いかける存在であり続けたいと思っている。



▲トークセッションのようす

(第3種郵便物認可) 2013年(平成25年)9月5日(木曜日) 言説

震災復興

## 福島映像祭での主な上映作品

内容	特別上映	映画	テレビ番組
報道ドキュメント「東電テレビ会議」	東電がインターネットで公開した映像を劇場版として240分に編集	福島 生きものの記録 (岩崎雅典監督)	福島 生きものの記録 (岩崎雅典監督)
天に栄える村 (原村政樹監督)	天栄村で放射性物質の除去に挑みながら、米作りを続ける農家を追った	Welcome to Fukushima 福島へようこそ (アランド・アルー監督)	線量を測り続ける男性、パニック障害を発症した少女などを通して、原発事故後の南相馬市を描く
福島を伝える者たち～カメラを回し続ける～ (福島中央テレビなど)	原発の水素爆発の瞬間をメディアで唯一撮影したテレビ局のスタッフが福島を伝え続ける思いを語る	闘う先生 (福島放送)	がんを患いながら、最後まで診療を続けた南相馬市の産婦人科医の人生を追った
母とともに 避難区域に灯る一つの明かり (福島テレビ)	自衛隊や警察の避難の呼びかけに応じず、認知症の母親を介護するため自宅にとどまった女性のドキュメント		

風化防げ「福島映像祭」

福島の現状を広く知ってもらおうと、東京電力福島第一原発事故に関する映画やテレビ番組などを集めた「福島映像祭」が14～20日、東京都中野区の映画館「ポレポレ東中野」で開かれる。

企画したのは、環境や人権などをテーマにインターネット配信の番組を製作しているNPO法人アワー・プラネットティービー(東京都千代田区)。原発事故後の福島を住民自ら動画で記録してもらったため、ビデオ

オカメラの撮影講習会も開いている。同NPOは、原発事故の被災者を巡る問題が風化することに危機感を感じ、映像を一堂に集めて多くの人の見ってもらおうと、上映会開催を思い立ったという。

上映されるのは、国内外の監督が撮影した映画や、福島県内の民放テレビ局の制作番組など13本。未公開のものもある。

上映作品の一つの映画は、全村避難が続く飯館村の酪農家・長谷川健一さん

### 都内で映画やTV、住民撮影動画

「福島映像祭」が14～20日、東京都中野区の映画館「ポレポレ東中野」で開かれる。



テレビ番組「福島を伝える者たち」の「コマ」

復興支援に関する情報下さい。TEL104-83 新聞東京本社地方部

## 原発事故と福島見つめる13作 東京で14日から、初の映像祭

東京電力福島第一原発事故と、その後の暮らしを見つめた映画、テレビ番組など全13作品を上映する初の「福島映像祭2013」が14～20日、東京都中野区のポレポレ東中野などを会場に開かれる。

非営利のインターネットメディア「アワー・プラネットTV」が「さまざまな角度から福島への思いを共有したい」(白石草代表)と

企画した。特別上映は、報道ドキュメント「東電テレビ会議」と「飯館村 わたしの記録」の2作品。

「テレビ会議」は2011年3月11日から同15日まで、東電本店と福島オフサイトセンター、原発を結んだ同社の会議映像と音声をも4時間の劇場版に編集、1号機が爆発し3号機の原子炉水位も低下……という当時の状況と対応経過をふり返

る。「飯館村」は、村で酪農を営んでいた長谷川健一さんが、牛を殺処分し全村避難を余儀なくされた日々を自ら撮影した。

そのほか、映画は南相馬市を追ったベルギーのアランド・アルー監督による「福島へようこそ」、岩崎雅典監督の科学ドキュメント「福島 生きものの記録」など5作品。テレビ番組は、テレビユー福島「それでも希望のタネをまく」、福島放送「闘う先生」など地元で放映された6作品が公開される。



特別上映される長谷川健一監督「飯館村 わたしの記録」より

期間中は制作者との対話イベントもある。入場料は当日1500円、前売り3600円(3枚セット)。一部無料や500円のプログラムもある。詳細は同祭サイト(<http://fukushimavoicenet/fes>)へ。



「飯館村 わたしの記録」のワンシーン。長谷川健一さん(左)が自らの生活や村の様子を撮影した

### 投稿や現地民放製作の13作品 被災者が記録した現実

#### 東京・中野で「福島映像祭」

東日本大震災後の福島の人々を描いた映像ドキュメンタリーやテレビ番組など13作品を上映する「福島映像祭」が14、20日、東京都中野区の映画館「ポレポレ東中野」で開かれる。映像祭主催者は、被災者らに映像の記録を呼びかけており、その動きは徐々に広がっている。

主催したのは非営利のインターネット放送局(Oriental TV「アワー・プラネット・ティービー」)。2001年に設立され、独自番組をネットで配信しているが、震災後はスタッフだけでは取材の手が回らなくなった。そこで被災地の人々に自ら記録を残してもらおうと、今年7月に専用サイトを「ふくしまのこえ」を開発。現地でワークショップを開いてビ

デオの編集方法などを教え、作品を投稿してもらっている。それに合わせて今回の映像祭を開く。上映作品の「飯館村 わたしの記録」は、東京電力福島第一原発事故で全村避難となり、村から伊達市の仮設住宅に避難している長谷川健一さんが、震災直後から約半年間を記録した70分の映像だ。「当事者の目線で実際に味わっていることを伝え、後世に残さない」と駄目だ」と自らビデオカメラを購入、酪農を営む長谷川さんは、牛が殺処分されたり、避難のため一家が離ればなれになったりする様子を収めた。

福島県内の民放テレビ4局が制作したテレビ作品も上映する。福島中央テレビの2作品は、原発建屋の水素爆発をメディアとして唯一撮影し、世界に報じた同局の自己検証番組「局幹部や記者、その家族らが登場し、取材の真相を伝えている。アワー・プラネット・ティービーの代表を務める白石草さん



白石草さん

「ふくしまのこえ」には、これまで約50の映像が寄せられており、活動の輪は少しずつ広がっている。埼玉県加須市に住む同市立騎西中学1年、鶴沼はなさん(17)は震災後、福島県双葉町から同市に避難。父親は単身赴任中で、母親と2人でアパートで暮らしている。一緒に避難していた仲良しの友達が1年半前に福島に戻って以降、学校を休みがちになった。「学校になじめない。なんでもんストレス社会になってしまったのか。いじめを受けている人や、乗り越えた大人とかいえる年代の人が本当に思っている」といっばい詰め込んで映画を作りたい」と思うようになった。写真を撮るのは好きだが、ビデオカメラの扱い方は分からない。

役場と移転した旧騎西高校で避難者向けのカフェを運営する母親が白石さんと知り合ったため、近く加須市でワークショップが開かれることになった。鶴沼さんは一人と関わるのが苦手なので、インタビュアの仕方とか本音の引き出し方を教えてほしい」と話している。

【土屋漢】



福島中央テレビ「福島を伝える者たち」カメラを回し続ける」の一場面



酪農家の長谷川健一さんが撮影した「飯館村 わたしの記録」の一場面

### 「今こそ原発事故の記録見て」

### 国内外13作品一挙上映

話題の発掘

福島原発事故に関するさまざまな映像を集めた「福島映像祭」が14、20日、「ポレポレ東中野」(東京・中野)で開かれる。東京電力のテレビ会議を編集した特別映像や、国内外のドキュメンタリー映画、テレビ番組など13作品が一挙に上映される。

主催するNPO法人「アワー・プラネット・ティービー」の白石草さんは「五輪の祝賀ムードに沸き立ち今こそ被災地の苦悩を感じてほしい」と話す。事故発生から五日間の福島第一原発と東電本店とのやりとりを録音した「東電テレビ会議」を制作した。インターネット公開の映像を、四時間編集した。現在の汚染水漏れにつながる事故の構造を明らかにしたいという。

福島原発事故に関するさまざまな映像を集めた「福島映像祭」が14、20日、「ポレポレ東中野」(東京・中野)で開かれる。東京電力のテレビ会議を編集した特別映像や、国内外のドキュメンタリー映画、テレビ番組など13作品が一挙に上映される。

#### 東中野で「福島映像祭」

福島県飯館村の酪農家長谷川健一さん(左)が自ら身边を記録した映像は「飯館村 わたしの記録」という映画になった。長谷川さんが長年飼育した乳牛が殺処分のために連れて行かれる場面や、家族が避難する前日の様子などが収められている。白石さんは「原発事故が収束しない要因は、東電や政府の無責任体面と情報隠蔽にある。今こそ事故の記録を見てほしい」と話す。当日券は「一般1500円(前売りは「回券三千六百円のみ。問い合わせは、ポレポレ東中野」電03(3371)0088へ。

村政樹監督)は、農家の苦闘を描いた。「福島へようこそ」(ヘルギー、アラン・ド・アール監督)は、南相馬の人々に密着した。「福島を伝える者たち」カメラを回し続ける」(福島中央テレビ)「母とともに避難区域に灯る一つの明かり」(福島テレビ)「闘う先生」(福島放送)など地元テレビ局の番組映像も上映される。

「福島を伝える者たち」カメラを回し続ける」(福島中央テレビ)「母とともに避難区域に灯る一つの明かり」(福島テレビ)「闘う先生」(福島放送)など地元テレビ局の番組映像も上映される。



### 余録

子どもたちが夜、神社の社務所に集まり、太鼓や笛の音に合わせて踊る練習風景からその映像は始まる。祭り本番で色とりどりの衣装に身を包み、面をつけ、剣を振り、子どもたちは12種類の舞を披露していく▲福島県新地町の諏訪神社の春祭り「福田十二神楽」をとらえた11分40秒の映像からは、主役を演じる子どもたちの息づかいと、晴れ姿を見守る人々のぬくもりが伝わってくる。隣の相馬市に住む岩崎孝正さん(27)が今年5月に撮影した▲「福島」の日常の姿を残したい。震災と原発事故以来、岩崎さんは思いを募らせ、カメラを購入し動画を撮り始めた。福島映像を募集しているインターネットのサイトがあることを知り投稿した▲サイトはNPO法人「アワー・プラネットTV」が7月に開設した「ふくしまのこえ」。避難した家族、警戒区域に一人とどまったお年寄りらへのインタビュー映像など、現在21作品を公開中だ▲ドキュメンタリー映画になった作品もある。飯館村の酪農家、長谷川健一さん(60)が撮りためたビデオ映像を70分に編集した「飯館村 わたしの記録」。家族が離れ離れになる避難前夜の晩さん。殺処分で運ばれる牛を泣きながら見送る主婦。東京電力、村役場と村民らとのやり取り▲当事者にしか撮れない映像の数々だ。長谷川さんも後世に記録を残さなければとの一心からだった。「原発事故で変わってしまった福島の姿を住んでいる人々に記録してもらい、多くの人が目にする窓口になれば」とアワー・プラネットTVの白石草さん(44)。福島を撮る。その動きが広がれば、貴重な歴史資料が蓄積されていくはずだ。

2013.10.4

### \*秘密保護法関連

■共同通信配信：沖縄タイムス(11/6)、信濃毎日新聞(11/6)、福島民友(11/6)、山陰中央新報(11/6)、四国新聞(11/6)、琉球新聞(11/6)、岩手新聞(11/7)、佐賀新聞(11/7)、長崎新聞(11/7)、日本海新聞(11/7)、徳島新聞(11/7)、河北新聞(11/8)、京都新聞(11/8)、静岡新聞(11/11)、神戸新聞(11/12)、愛媛新聞(11/14)

## 情報へのアクセス 市民が萎縮

東日本大震災の後、自分で社会の問題を掘り起こしたり、メッセージを伝えたりしたいという市民が増えていく。東京電力福島第1原発事故で、マスメディアから発信される情報が絶対ではないと分かったからだ。原発で何が起きていたのか、さまざまなところから情報を得て避難した人たちがいた。マスメディアが報じない、自分で判断するための「もう一つの情報」はきつと必要だ。

私が代表を務める「Our Planet TV」(アワー・プラネット・テレビ)は、ドキュメンタリーやインタビューの独自番組をつくってインターネットで配信する一方、機材を貸し出し、映像制作を学ぶ場を設けて、市民の情報発信を支援している。

メディアで働いていない一般の人たちは、実は高い専門性を持っている。農家や医師など、それぞれの視点で物事を見ているので、問題の所在や情報にアクセスするポイントを知っている。

今や一人一人の市民が私たちが

## 秘密保護法案

### を問う

1

白石 草さん



しらいし・はじめ 69年東京生まれ。東京メトロポリタンテレビ勤務などを経てOur Planet-TV代表。

情報保全の徹底を掲げる特定秘密保護法案は何が問題で、どんな必要性があるのか。さまざまな分野の人たちに法案の論点を聞いた。

ネットメディア「Our Planet TV」代表

### 「報道」の選別にも懸念

情報も情報を持っていて、告発や情報提供がたくさん寄せられる。映像制作の方法を教える私たちが、逆に市民からも教えられるという双方向の関係にある。

特定秘密保護法案が成立すれば、そんな市民が情報にアクセスすることに不安を抱き、自粛する恐れがある。私たちにとって貴重な情報源を失うことになる。

法案は報道・取材の自由を十分に配慮している。それ自体まやかしたと思うが、何が報道で何が報道でないという境目があるのだろうか。

私たちのような新しいメディアは、今も首庁などで取材をする際に報道機関として登録できない場合が少なくない。マスメディアは罪に問われないが、市民は処罰されるというのではおかしい。

原発事故をめぐる避難政策や被ばくの問題について情報公開請求をする、真つ黒な文書が出てくる。民主的な議論のプロセスが全く見えない社会で、さらに情報が統制される。官僚がアピールしたいものを一部のメディアにリークし、伝えたくない情報にはかん口令を敷くという状況が広がることを心配している。

## 【OurPlanetTV に寄せられたコメント】

- 広告なしでメディアを10年も続けていられることに敬意を抱きます。考える市民の発信力が必要だと強く感じています。(メールマガジン登録者)
- さまざまな理由があり、震災から半年後にふるさと山形に引っ越してきました。地方にいと、中央集権のいやな部分が見えてきます。山形県には福島からの避難者が1万人弱いますが、精神的・金銭的に二重生活が苦しくなって福島に帰る人も多くなっています。小さい子を連れて帰るのか…と、当方も複雑な思いです。いま情報を得るときには、信頼できる発信元を中心にしています。とくに、アワプラなどの映像は重要ですね。フリーランスの記者の立場が改善されるように注視しつつ、アワプラの今後の活動に期待しているところです。(メールマガジン登録者)
- 地方に住んでしばらく経ちました。連日の国会や周辺の実況を注視していた時、PCの具合が悪くなり、TVのNHK発表とローカル局の穏やかな日常しか見られなくなったときは、行進の足音が聞こえてくるようでした。少しですが、ご活躍のお手伝いが出来ればと思います。(メールマガジン登録者)
- みなさんのご努力に感謝。取材、機材、編集などはお金がかかりますね。新聞定期購読、NHKの受信料だけで、年間6万は超えますね。せめてそのくらい皆が負担してまともな独立系メディアを維持したいものです。わたしはNHK・OBですが、肝心なことを伝えない報道に腹を立て、一方で、一部のまともな番組には応援しています。小遣いがなくなったら、NHKの受信料は半分しか払わないことにして、アワプラネットを支援します。半分冗談ですが…。(新規会員・60代男性)
- 存在を知って、勇気づけられました。こういうこと、もっともっと広げていきたいです。(新規会員・50代女性)
- 「記者クラブ制度」でがんじがらめになっている大手メディア。もう、彼らの時代ではありません。何が起きているのか？真実はどこにあるのか？誰に責任があるのか？それが出来るのはOurPlanet-TVです。(新規会員・60代男性)
- 真実の情報発信を支援します。次世代の為に誰かにしてもらうのではなく自分たちの力で変えていきましょう。(新規会員・40代女性)
- 昨日は「原子力規制庁幹部、日本原電に内部資料漏洩」を見て、規制庁に抗議のメールを送りました。先日の井戸川双葉町長のインタビューを見て、昨年1月の脱原発世界会議の会場で白石さんが井戸川町長にインタビューされていたことを思い出しました。あれから1年たつのに、原発事故の後始末は混乱が続き、頑張っておられる方はたくさんおられるのだろうけれど、良い方向に進んでいるという感じがしません。市民が関心を持ち続け、あきらめずに声を上げ続けなければならないと思っています。考える材料を今後も提供してください。よろしくお願ひします。(寄付者・女性)
- マスメディアが何を報道しないのか、私たちが知らなければならないことは何かをOurPlanetTVから学んでいます。(寄付者・女性)
- マスコミにはない視点でのさまざまな報道にいつも感謝しています。これからも期待しています。(寄付者・女性)